

施設実習を終えて

真壁 愛実

私は1年次の春に障害者支援施設で実習を行いました。私は障害をもった方に対し、どちらかといえば怖いという感情を持っていました。だから実習へ行きたくないと思ったこともありました。しかし実習を終えることができたのは学校の先生方、家族や施設の職員の方たち、そして施設を利用されている方たちがいたからです。楽しかったとさえ思っています。

とはいえ実習が始まってからは初めて経験することも多く、戸惑うこともありました。どう関わったらよいのか考え込んでしまうこともありました。同じ名前前の障害でもできること、好きなこと、得意なことなどはやはり一人ひとり違います。同じ関わり方をすることが良いこととは限りません。私が利用者さんの要求が理解できずに利用者さんに怒られてしまったこともあります。落ち込んだ私に気づきそっと励ましてくれたのもまた利用者さんでした。言葉をうまく使える方ばかりではなく、言葉でのコミュニケーションが難しい方もいます。声をかけると笑顔でうなずいてくれた方もいます。何を伝えたいのかわからなかった方もいます。そのようなときは表情や行動、周りの状況などから何を伝えたいのか考えていく必要があることを学ぶことができました。

ある利用者さんは保護者の来る10日ほど前からずっと外を見て「母ちゃん」と言っていました。いつ来るか伝えても「まだかなあ」と言いながら駐車場の見えるところに座って待っていました。またある利用者さんは入浴の時間が日中で、「やっぱりお風呂は夜入りたい」と言っていました。施設が生活の場といってもやっぱり家庭には変えられないし、職員も家族ではないのだと感じました。

実習中には利用者さんとたくさん関わることができました。スペシャルオリンピックスで金メダルをとったことを話してくださったり、その時の金メダルや写真を見せていただいたり、施設での生活や好きなことについてお話をうかがったり、一緒に歌を歌ったり、ラジオから流れてくる音楽と一緒に聴いたり、実習を終えてから1年たっていますが1つひとつ思い出すことができます。私にとっても楽しい時間でした。その時に感じたのは私たちと何も変わらないということです。障害があろうとなかろうとされて嫌なことは同じように嫌だし、嬉しいことは同じように嬉しい、楽しいと思えることもある、私たちと何も変わらないと思います。

街に出れば「障害がある」ただそれだけで面白がられたり、ばかにされたりすることもあると思います。それでも私のような実習生に優しく接してくださいました。声をかけてくださいました。初めに持っていた怖いという感情はいつの間にか消えていました。とても優しい方たちでした。私も障害に対して偏見を持っていたのだと気づかされました。障害をもった方と関わったことがあまりなく、障害に対する知識もなかったことから怖いという感情をもってしまったのだと思います。まだまだ障害に対する知識は薄いと思いますが、実習を通して施設へ就職することも考えるようになっていました。

そしてこの春から実習でお世話になった施設へ就職することになりました。もっと時間を掛けて利用者さんされている方たちと向き合っていきたいです。実習と仕事では違うけれど、実習で得たもの、学んだことを活かして大変なこともあると思いますが頑張りたいと思います。